

金立小学校 指導と評価の一体化を実現する 学習評価



金立小学校 校内研究

2023年7月28日(金)
校長 副島 和久



指導と評価の一体化を実現する学習評価

1

学習評価の充実を図るための配慮事項（総則）

・生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにすること

・各教科等の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにすること

改善の基本的な方向性 「児童生徒の学習評価の在り方について〈報告〉」（平成31年1月21日）



①児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと

②教師の指導改善につながるものにしていくこと

③これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと

指導と評価の一体化を実現する学習評価

2

つまり、「学習評価」とは・・・

学校における教育活動に関し、児童生徒の学習状況を評価することですが、それは何のために行っているのかということが大切になります！



少なくとも、学期末や年度末に通知表や指導要録に記録するためにABC（◎○△）をつけること（だけ）ではないということですね。お分かりいただけただでしょうか。



では、「通知表」は、どのような目的で発行しているのでしょうか？

指導と評価の一体化を実現する学習評価

3

「通知表」とは・・・

学校から児童本人や保護者・家庭に、学校での学習状況や生活状況（また、その達成状況・実現状況）をお知らせし、その後の児童本人の励みとなるようにするとともに、学習改善・生活改善につながるようにするために伝えるもの

通知表に求められるもの

- ①〔 〕性 ②〔 〕性 ③〔 〕性
間違えていない 納得できる 根拠、今後の見通し
▣ 「客観性」は目指すべきだけど、難しい。「公平性」はTPOに応じて

指導と評価の一体化を実現する学習評価

4

つまり、「通知表」とは・・・

「通知表」も、金立小学校が実施する「学習評価」の一部として機能するようにすることが大切です。

で、そこに至るまでの指導と評価（の一体化）を充実させることで、
（安易に目標を下げたりすることなく）

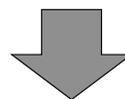
C（△）をあげなくてはいけない児童を限りなく0にし、自信をもって、
A（◎）をあげられる児童が増えるようにすることが大切です。

☛ それでも、C（△）をあげなくてはいけない児童へのサポートは丁寧に

確認です！ 何のための評価なのか？

5

- ① 児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
- ② 教師の指導改善につながるものにしていくこと



「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」（平成31年1月21日）

- 日々の授業における児童の姿は、常に上に示している②につなげていきたいですね。
- 通知表において、◎○△や所見で児童生徒の学習状況を伝えることも、上の①に根差したものであることが大切です。

そのために2学期に向けてお願いしたいこと！

6

1. テストの結果だけに頼り過ぎず、可能な限り、授業での様子の観察、ノートやワークシートの記述など、幅広く多面的に児童の学習状況を捉えるように工夫してみてください。
2. 最終的に「要努力」(△)になりそうな児童が少なくとも「おおむね満足」(○)に、「おおむね満足」の児童はできれば「十分満足」(◎)と(先生方が自信をもって)評価できるように、指導・支援をお願いします。(まずは前期の評価)
3. 前期の通知表渡しでは、◎○△の内実やこれからの頑張り所をぜひ児童一人一人に伝えていただき、児童の後期からのやる気や学習改善につながるようお願いいたします。

夏休み中にぜひ考えておいていただきたいこと

7

- それぞれの教科において、何を評価材料として取り扱っているのかを確認し、テスト偏重などが考えられる場合は2学期の1か月でカバーできるようにお考えください。
- 通知表の各教科の各観点の内容をもう一度、じっくり読んでみて、「自分は、日々、こんな児童を育てているんだ」ということを再確認してください。今後は観点の内容の見直しも検討
- 個々の児童に応じた指導・支援ということを考える上で、不登校(傾向)の児童など十分に授業に参加できていない児童の学習保障と評価の可能性についての見直しをお持ちください。